

# ふるさと見て歩き

## 第45回

### 妙蓮寺のお会式

#### ◆ 松山の妙蓮寺

御前山地域松山地区は、市の南西端に位置する世帯数四十ほどの集落です。ここに日蓮宗木曾山妙蓮寺があります。現在は小さな御堂といった感じですが、昭和四十年代に再建される以前は現在の御堂の数倍の広さがあり、お祭りのたびに大勢の人が集まり賑わったそうです。境内には共同墓地もあり、地域の人々に大切に守られていることがわかります。妙蓮寺には日蓮上人の坐像が祀られており、ほかに市の文化財に指定されている七面大明神や、異形の鬼子母神像も祀られています。妙蓮寺では年に三回お祭りが行わ



▲日蓮宗妙蓮寺

れています。

春は二月の第三日曜日に「甘酒まつり」が行われ、集まった人々に甘酒が振舞われます。秋は旧暦の九月十二日に「首つぎぼたもち」という行事が行われます。これは、日蓮上人が宗教的な対立で捕らえられ、まさに斬首されようとするところへ信者が会いに来て、持ってきたぼた餅を日蓮が食べているうちに処刑の時刻を過ぎてしまい取りやめになった、あるいは実際に斬首されたあと、信者がぼた餅で首を接いだところ首がつながった、すなわち「首つぎのぼた餅」という由来があるといひ伝えられています。この日は午後にはぼた餅を重箱に詰めて妙蓮寺に行き、祭壇の日蓮上人にお供えします。昭和三十年代頃までは地区の人々がぼた餅を持ち寄り、隣接地区の人々も加わって食べ比べをし、盛大に行われていたそうです。

#### ◆ お会式

妙蓮寺で行われる三回のおまつりのうちでも最も重要視されるのが、日蓮宗の開祖、日蓮上人の命日に行われる「お会式」です。日蓮は鎌倉時代の一二八二年十月十三日に没したとされ、その地にあたる池上（東京大田区）の本門寺では、現在でも十月十二日の夜に万灯供養が行われています。日蓮宗寺院や日蓮宗の檀家などでは十月十二日から十一月中旬までの定日に、お会式を行うこと

妙蓮寺では旧暦の十月十三日に近い週末（現在は新暦十一月の第二日曜日）にこのお会式を行っています。今年は十一月八日に準備、九日にお会式を迎えました。

お会式では堂内の飾り付けとして、大根や柿、裁断した色とりどりの餅などで須弥壇の柱を飾る「餅柱」を作り、地域の人々がお参りをします。

準備は前日から始まります。お会式の当番（ホンドー）は五軒ずつが順番に担当します。その年の宿となるお宅に夕方に集まり、餅をついて薄く伸ばし、その餅を赤、緑、黄色に着色しておきます。会場となる妙蓮寺は清掃して清められます。翌朝、着色した餅を小さな三角形と四角形に切り分け、いよいよ餅柱の製作にとりかかります。餅柱は堂内の中央にある須弥壇の左右の柱を使って飾り付けられます。両方の柱に小麦わらを巻きつけ、この外側に下から順に大根、柿を柱の周囲に飾り、その上に、着色して三角形と四角形に切った餅を楊枝を使ってタイルの



▲餅柱の製作風景

ように貼り付けます。柱の周囲を菊の花で飾りつける



▲完成した餅柱

の当日は午前中に妙蓮寺境内で松山地区のふれあいまつりが開かれます。そして午後一時頃からお会式が始まります。現在、妙蓮寺は無住のため、城里町から僧侶を頼み御祈禱を受け、地域の人々もお参りにやってきました。一時間ほどで終了となり、そのあとは餅柱を解体し、ホンドー（今年の当番）五軒とウケドー（来年の当番）五軒で餅を分け合い、解散となります。丹精込めて作った美しい祭壇は年に一度しか見ることができません。

昨今、松山地区もまつりを支える人々の負担が大きく、維持するのが大変になってきています。餅柱に使う餅の準備も、機械でつくようになっています。とはいえやはり大きな負担となつていきます。それでも地域のおまつりと同時に開催するなど、住民間の交流を大切にしながら伝統のおまつりを守り伝える努力が続けています。

国安清さん、せつ子さんに聞き取り調査に御協力をいただきました。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450